

<その他、取組に特徴のある事例>

○和牛放牧による景観保全・獣害対策

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	滋賀県 <small>ひがしおうみし</small> 東近江市 <small>ゆずりおちよう</small> 杠葉尾町			
協定面積 8.3ha	田 (100%) 水稻	畑	草地	採草放牧地
交付金額 128.5万円	個人配分			0%
	共同取組活動 (9.3%)	鳥獣害防止対策 水路・農道等の維持管理		80%
協定参加者	農業者 44人	杠葉尾むらづくり委員会	1	20%

2. 取組に至る経緯

杠葉尾では、過疎化の進行により、集落の農用地や農家戸数が最近25年間で半減したことから、平成12年度より本制度を活用し農用地の保全を図ってきたが、近年、集落の過疎化や高齢化の進行に加えて、シカ・イノシシなどの野生獣による農作物被害などから耕作放棄地が増え、集落活動も停滞していた。

このため、地域に適した獣害対策方法等について、集落と行政（県・市）とが検討を進めた結果、18年度から集落農業者らで組織される「杠葉尾むらづくり委員会」を中心に、野生獣の追い払いや集落景観の保全・再生、さらには、地域農業の振興を目標に、野生獣の出没経路である山沿いを対象に、休耕田での和牛放牧に取り組むこととした。

3. 取組の内容

18年3月、山沿いの休耕田約1.3haを簡易な電気柵で囲い、5月から滋賀県畜産技術振興センターより繁殖和牛（妊娠牛）2頭を借り受け、放牧を開始した。

牧場開きでは、放牧地を「ゆずりお牧場」と命名するとともに、地域の子どもたちが牛に愛称（ゆずちゃん、リオちゃん）を付けるなど、集落あげでの歓迎となった。

放牧中の飼育管理は、「杠葉尾むらづくり委員会」を中心に日替わり制で当番を決め、エサやりや施設の点検など、多くの住民が参加して行われている。

20年度は、5月12日から出産間近の妊娠牛2頭を借り受け、試験的に、牧場内で出産させたところ、8月5日午前と6日の夕方に、オスの子牛2頭が無事生まれた。2頭の子牛は、広い牧場内を元気に走り回るなどすくすくと育ち、11月10日、親子の4頭が無事退牧し、本年の放牧を完了した。



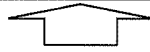
カヤの生育が押さえられた放牧地



ゆずりお牧場でくつろぐ牛の親子

【集落の将来像】

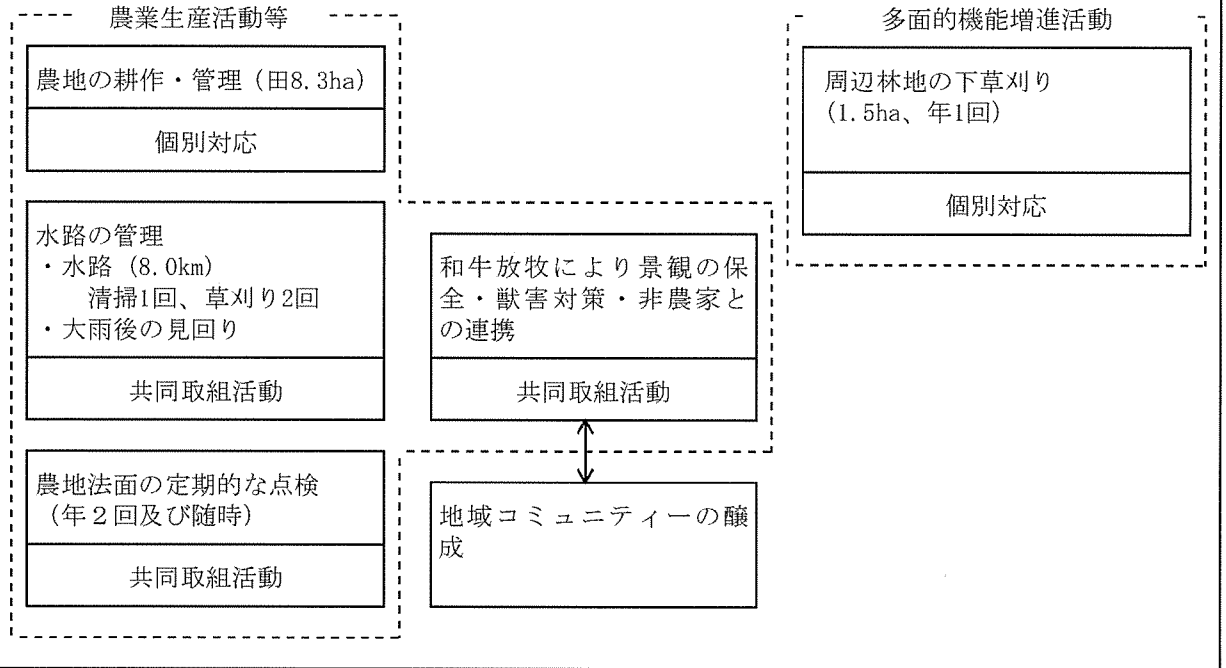
- 山間地の農地保全対策として、休耕田を協定農用地に取り込み、和牛放牧を実施して景観保全・獣害対策・非農家との共同活動等の取り組みを行い、休耕田の復旧を図る。



【将来像を実現するための活動目標】

- 耕作放棄防止等の活動、水路・農道等の管理方法の検討、鳥獣害防止対策の実施、和牛放牧を利用した景観保全・休耕田の復旧活動の実施

【活動内容】



4. 取組による変化と今後の課題等

放牧後は、「ゆずりお牧場」が住民の散歩コースになったり、和牛の様子が集落で共通の話題になるなど、地域コミュニティの醸成に役立っている。

また、放牧地内のカヤの生育が抑制され、夏場でも美しい放牧地となり、地域に親しまれている。

今後、新たに放牧地を拡大し、牛を転牧させながら、休耕田の保全と野生獣の追い払いを進めていく予定である。

また、放牧を継続することにより、営農や畜産振興面での効果も発現できるよう関係機関と連携しつつ、集落活動の活性化を推進していきたい。

【平成20年度までの主な成果】

- 休耕田が保全され、景観が著しく改善された。
- 周辺の農地において、野生獣による農作物被害が減少した。
- 高齢者の活躍の場を提供するとともに、特色のある取り組みから新聞報道などでも多く取り上げられることとなり、地域活力の向上が図られた。
- 牧歌的な風景や家畜とふれあうことにより、心が安らいだり、家族や集落での話題づくりなどにも効果がある。